

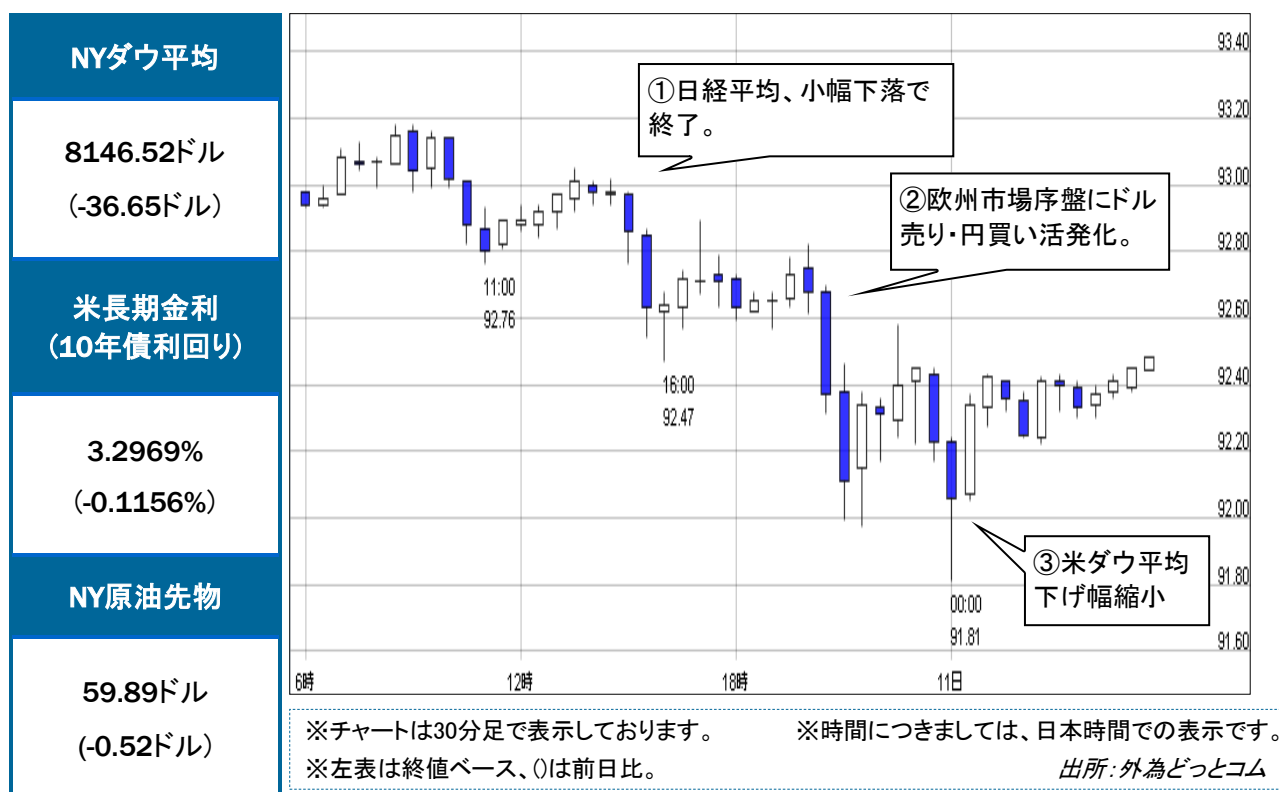
7月13日(月曜日)

ドル/円

先安観、根強く。ほぼ5カ月ぶり安値更新

10日(金)の主な推移

10日(金)朝6時～11日(土)朝6時



- ① 前日の米株上昇を受け、10日の日経平均は前日比最大ほぼ80円高となったが、その後上げ幅を縮小し、前日比3.78円安で終了。先行き不安感の強さを改めて印象付けた。ドル/円は朝方の93.18円をピークに、その後はじり安。
- ② 景気先行き懸念が世界的に広まる中、リスクに対して消極的な傾向強まる。欧州株価指数は軒並み下落し、外国為替市場では円が各通貨に対して上昇。
- ③ 米国株式市場ダウ平均が下落するのに伴い、ドル/円相場は日本時間11日午前0時過ぎに91.81円まで下落し、8日に記録したほぼ5カ月ぶり安値91.82円を更新。ただ、ダウ平均が引けにかけて下げ幅を縮小するのに伴い、ドル/円相場も反発した。

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済回復期待の高まり、先行き懸念の緩和  
→日米株価の上昇、米長期金利の上昇
- リスクを取ることに積極性が増す
- クロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)の上昇
- ・日本経済の深刻な落ち込み
- ・日本政府当局者による円高けん制発言

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米経済回復期待の後退、先行き懸念の強まり  
→日米株価の下落
- リスクを取ることに消極的になる
- クロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)の下落
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

## 本日の見通し

本日の予想レンジ: 91.85-93.15円

本日は主要な経済指標の発表は予定されておらず、様子見ムードが強まりやすいが、世界経済の先行きへの懸念が強まる中、ドル/円相場は下落リスクの高い状況が続きやすい。目先の下値のターゲットは91.81円だが、手がかかり材料に乏しく、少なくとも日中は92.15-20円近辺では底固い推移が予想される一方、92円台後半では伸び悩むだろう。

6日の当レポートでも述べたが、米6月の雇用統計を受けて強まった米国経済の先行き懸念を覆すのは容易ではない。明日14日には米6月小売売上高、17日には米6月住宅着工件数、住宅建設許可件数と、家計の動向を示す代表的な経済指標が発表されるが、個人消費の基盤である雇用市場への懸念が再燃する中、個人消費や住宅市場の持続的な回復は期待しづらい状況となっている。

今週予定されている米国の複数の金融機関の決算発表も重要な材料だ。14日にはゴールドマン・サックス、16日にはJ.P.モルガン・チェース、17日にはシティ・グループが決算を発表する。住宅価格の下落が続く中、金融機関が保有する住宅ローン関連資産の含み損拡大が懸念される。

## 本日の注目イベント

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/13(月)	13:30		(日)5月鉱工業生産・確報 [前月比]	+5.9%	—
7/14(火)	3:00		(米)6月月次財政収支	-775億USD	-335億USD

※時間はいずれも、日本時間で表示しております。※注目度は高い順に、◎、○、無印で表示しております。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総研ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。